

カンボジア通信

カンボジア教育支援基金 (KEAF-Japan) 会報

2021年3月 98号



〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10-5
JICA地球ひろば気付

カンボジア教育支援基金事務局

info@keaf-japan.com
http://keaf-japan.com

カンボジアでは再び学校閉鎖 現地活動再開はいつ??

日本では首都圏4 都県で非常態宣言 2週間延長

国際的なコロナ感染の広がりや2020年2月にKEAFのカンボジア現地での支援活動にストップがかかってから2年目に入ってしまいました。夏から秋にかけては現地訪問の再開が可能かなと思ったものです。見通しを誤りました。でも、失敗は私たちだけではなく、今は世界中がパンデミックとはどういうものか、あらためて学んでいるところだと思います。

新型コロナ蔓延は中国から始まったとされますが、中国から東アジア、東南アジアにかけての地域はなぜか欧米の先進諸国よりは感染の広がりが抑えられているように見えます。中でもカンボジアはフン・セン強権の強権支配の下で感染を最小限に封じ込めてきました。昨年夏の終わりには年末から2021年初にかけての学校再開の日程を決めました。ところが最近になって感染再発の恐れが出てきて、1月11日に再開された学校が2月20日から再び閉鎖され、商店も閉めるところが多くなっているとのことです。

外国からの旅行者が隔離期間中に外出して歩き回ったことが原因で、プノンペンやシアヌークビルで急に感染が広がり、1日30人ほどの感染者が出ているそうです。KEAFの現地活動を支えてくれる日本語ガイド、ソワンさん一家のナットさんが、そんな情報を伝えてくれました。

日本でも「Go To Travel」や飲食店の部分的再開が「前のめり」だったようで、3月7日解除を目指していた2度目の緊急事態宣言は、首都圏4都県が2週間延長される事態になりました。今月には聖火リレーのスタートが予定されている東京オリンピックが開催できるのか、瀬戸際に差し掛かろうとしています。

こんな状況では、私たちのカンボジア農村の子どもたちを支援する活動がいつ再開できるのか、見通しは全く立ちません。昨年2月に後期奨学金支給のための現地訪問に出発しようとしていたときにコロナ感染が始まり、この訪問は中止になりました。それ以来、季刊の会報『カンボジア通信』はひと回りして4回発行し、この98号は現地活動ができなくなってから5回目。子どもたちや学校がどうなっているのでしょうか。私たちが現地に行けなくてもできる支援方法はないか、みんなでチエを出し合っているところです。(金子)

プノンペンから明るい便りも

私たちの現地活動のパートナー、ナットさん(前出)に初めての赤ちゃんが2月に生まれました。出生時3.5キロの男の子で、名前はピセットちゃんです(右の写真)。

ナットさんは昨年4月にミランダさんと結婚、日本に新婚旅行でくるところになっていたのですが、コロナのおかげでストップがかかったままです(『カンボジア通信』2020年3月94号)。

赤ちゃんは希望のシンボルです。ピセットちゃんとカンボジアの赤ちゃん、そして世界中の赤ちゃんがすくすくと育つ、希望あふれる世界になるよう祈ります。ママになったミランダさんもナットさんに負けず劣らず、日本語が上手で、日系企業に勤めていてナットさんと知り合ったそうです。



揺れる東南アジア 親中国のカンボジアに批判

中国の巨大な影とトランプ政権登場後の米中対立激化の下で、ASEAN（東南アジア諸国連合）各国の足並みに乱れが生じている。ASEAN 内部では親中国の立場をとるカンボジア、ラオスの 2 カ国批判が浮上した。

2 月はじめにはミャンマーで軍事クーデターが起こり、民主主義を守ろうとする民衆の抗議デモに軍部が武力弾圧を続け、国際的な非難を浴びている。中国はクーデターを内政問題と主張、ロシアとともに国連安保理の非難声明を阻止している。

クーデターの成り行き、そして中国の出方によっては、ASEAN に亀裂が生じる可能性もある。

共同声明カンボジアが阻む

ASEAN はベトナム戦争に巻き込まれたくないタイ、インドネシア、フィリピン、マレーシア、シンガポールの 5 カ国が 1967 年に設立。戦争終結後、1997 年ラオス、ミャンマー、1999 年カンボジアなどが加わって加盟国は 10 カ国に拡大した。

ASEAN の動揺は中国の南シナ海「囲い込み」から始まった。中国は 1990 年代に入ると、南シナ海南沙諸島のカグベン礁などに領土標識を建てたり建造物を構築したりして実効支配を強化し、2007 年には西沙、南沙諸島を含む新たな行政単位、「三沙市」を設置した。

2012 年の ASEAN 外相会議は中国の一方的かつ強引な南シナ海進出を批判する共同声明を出そうとしたが、合意できなかった。新加盟のカンボジアが消極的だったからとされる。ASEAN 内の地政的、政治・外交的立場の相違が初めて露呈された。

海軍基地使用権付与か

カンボジアはラオスとともに、その後も ASEAN

の中国批判の盾になってきた。昨年 7 月米紙ウォールストリート・ジャーナルが、シャム湾に面するシアヌークビルに近いレアム海軍基地の排他的使用権利(期間 30 年)を中国に与えたと報道した。

カンボジア、中国ともに否定。しかし、同基地内に米国の支援で 2012 年に設けられた海上警備施設が運用開始から 10 年もたたないのに解体され、近くの別の場所に移設された。これが同紙報道を裏図けるものだとすれば、中国海軍はレアム基地から南シナ海やマラッカ海峡へのアクセスという戦略的な拠点を得る。国際的に大きな衝撃だ。

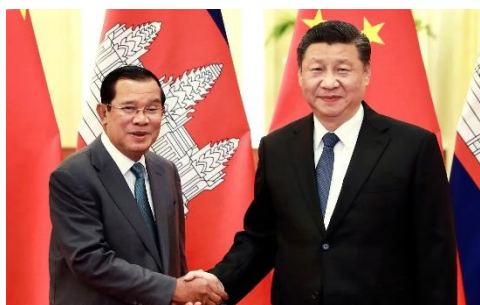
カンボジア、ラオス排除の動き

この動きの中で昨年末、親中国の立場をとるカンボジア、ラオスの 2 カ国の ASEAN 脱退を非公式に検討すべき時期だと主張する元 ASEAN 外交官の文書が出回った。今後は ASEAN 内でこうした動きが顕在化する可能性がある。

ミャンマーに中国パイプライン

そして 2 月初め、ミャンマーで軍事クーデターが起こった。ミャンマーは第 2 次大戦後独立したが、長く軍事独裁政権が続いた。民主化を求める政治勢力、国民民主連盟（NLD）と軍政権との間の政治的妥協から、2011 年に軍の影響力を残したまま民政へ移行、同 16 年にはアウン・サン・スー・チー国家顧問兼外相の政権が誕生した。

中国はその「一帯一路」戦略のひとつとして西部ラカイン州の経済特区を開発して深海港を建設し、その港から雲南までをつなぐ天然ガス・石油パイプラインを 2013、2017 年に建設した。従来のマラッカ海峡を通るルートに頼る必要がなくなると同時に、インド洋進出のきっかけもできた。中国は政権がどうなるろうとも、抱え込んだミャンマーを手放すことはなさそうだ。



国外流失の 125 体返還

アンコール朝の歴史遺産

カンボジアの長い内戦の混乱の中で、盗掘や盗難によって国外に散逸していた石像などの貴重な考古学上や美術的な価値の高い歴史遺産 125 体のカンボジア政府への返還が進んでいる。これほど大量の同時返還が実現するのは初めてという。

内戦の混乱で盗掘・盗難

ニューヨーク・タイムズ紙によると、この歴史遺産はバンコク在住で昨年8月死去した歴史美術品収集家D・ラチェトフォード氏が保有していた。娘のクリアンサクさんが125体もの貴重品の管理・保存は手に余ると返還に取り掛かり、すでに25体がカンボジア政府に戻された。

カンボジアでは1975年のベトナム・カンボジア戦争終結後もポル・ポト政権の恐怖政治を経て、冷戦を背景にした米・中国支援のポル・ポト派（クメール・ルージュ）とソ連支援の親ベトナム勢力との内戦が続いた。この間にアンコール王朝期の大量の文化遺産が不法に流出し、国際的な闇商人のネットを通して世界の好事家や美術・博物館に、出所を誤魔化して高額で売り払われてきた（右上写真：アンコールワット壁面のアプサラ像）。

国連（ユネスコ）は1970年に考古学資産や美術品の闇取引を禁じる議定書を採択した。しかし、取り締まりの効果はなかなか上がらず、動乱の中東からテロ組織の資金稼ぎに歴史的資産が闇市場へ散逸する事態も起きている。

カンボジア政府から勲章

ラチェトフォード氏はインド生まれの英国人で、タイ人女性と結婚、タイ姓のクリアンサクも名乗っていた。長年バンコクでビジネスにかかわり、その資力で美術的価値の高い歴史遺産を買い取ってきた。125点は闇市場価格にすると5000万ドル（約53億円）を超え

るという。

ラチェトフォード氏は利益のために盗品を買いあさったのではなく、貴重な文化遺産を破壊から守り、安全に保管するために買い取ったと主張してきた（同紙とのインタビューなど）。美術品に関する専門家として知られるようになり、解説書3冊（共著も含む）を著わしている。

ラチェトフォード氏はこれまでも収集品の一部を随時、カンボジア政府に返還しており、同政府はカンボジア文化への貢献を評価して勲章を贈っている。

米当局からは訴追

しかし、ニューヨークの米連邦検事局は2019年にラチェトフォード氏の収集に疑わしいものがあるとして盗品故買容疑で訴追した。同氏の死亡でこの捜査は打ち切りになる。カンボジア政府は返還品を「ラチェトフォード・コレクション」として博物館に飾ることにしている。

カンボジア政府は世界各国の美術館や博物館に陳列されているカンボジアの歴史遺産のうち不法ルート経由で入手したと確認されたものの返還を求めてきた。

米国からは2014年にはニューヨーク・メトロポリタン美術館から一対の膝まづく戦士像、カリフォルニア州パサデナのノートン・サイモン博物館からレスラー像、コロラド州デンバー美術館から首のない猿神像、著名なオークション業者クリスティーズとソトビーズからも各1体、計6体の返還を受けている（『カンボジア通信』2013年6月67号、同2014年6月71号）。

金融取引の公開性厳格化

博物館や美術館、あるいはオークション業者も「盗品・盗掘品」とは知らずに購入するケースが多いのが現実だ。米政府は「対テロ対策」のひとつとして歴史的資産の闇市場潰しに力を入れていて、1月に1970年銀行秘密法の金融取引における売り手と買い手の公開性を厳格化する法律を成立させている。（金子）



ありがとうございました (2020年11月25日～2021年3月1日)

年会費、寄付金、奨学金を振り込みくださった方々に厚くお礼を申し上げます

(敬称略させていただきます)

(東京)	(東京)	(大阪)	(東京)	(東京)	(埼玉)
(東京)	(東京)	(東京)	(愛媛)	(福島)	(東京)
(練馬)	(群馬)	(東京)	(千葉)	(東京)	(東京)
(神奈川)	(東京)	(千葉)	(千葉)	(神奈川)	(東京)
(東京)	(神奈川)	(東京)	(東京)	(東京)	(東京)
(奈良)	(神奈川)	(東京)	(埼玉)	(宮崎)	(東京)
(神奈川)		(大阪)	(東京)	(神奈川)	
(千葉)	(東京)				

※お名前は個人情報なので伏せて掲載しています。

野党元党首に 25 年の禁固刑

フン・セン首相、さらに独裁固め

カンボジア法廷は 2 月 25 日、旧野党救国党の元党首でフランスに亡命中のサム・レンシー氏に対し、禁固 25 年の刑を同氏欠席のまま、言い渡した。同時にレンシー氏と行動を共にしているティウーロン・サウムラ夫人を含む 8 人の幹部たちも 20-22 年の禁固という有罪判決を受けた (右の写真: 中央左がレンシー氏)。

「抗議の帰国」は「クーデター」

2019 年 11 月にレンシー元党首らが亡命先から一斉にカンボジアに帰国して、独裁色を強めているフン・セン政権に対し平和的な抗議行動を起こそうとしたことがカンボジアの安全と領土保全を犯す行為だと認定した判決である。

当時、カンボジア国内では、これがクーデターの企てだとして、国内に残る野党幹部や活動家などの次々



に逮捕、拘束された。実際には、レンシー氏はプノンペン入りするための航空機に乗ることを拒否され、プノンペンでの抗議行動は実現しなかった。その後、ム・ソクア副党首も昨年 1 月、帰国を阻止された。

この判決が出た後、レンシー氏は「フン・センは私が政治の舞台に復帰することを恐れている。自由で公平な選挙だと必然的に専制的な彼の政権が終わることにつながるからだ」と述べた。

国際圧力でさらに「中国寄り」

救国党が 2013 年の総選挙で躍進したことでフン・セン首相は危機感を募らせ、当時の党首キム・ソカ氏を国家転覆などの疑いで逮捕、救国党を解散に追い込み、2018 年 7 月の総選挙では、125 全議席で与党人民党が占めるに至った (左の写真: 2018 年選挙で白制服の与党人民党運動員に囲まれて演説するフン・セン首相)。

これを批判して欧州連合 (EU) はカンボジアからの輸入品の関税を免除する優遇措置の停止を昨年、発動した。こうした国際圧力がフン・セン政権をさらに対中国寄りにさせることにもなっている。(池内秀樹)

